

霧多布湿原来訪者の意識と行動に関する調査研究

エコ・ネットワーク

1. 目的

町村への来訪者を単に「数」として把握するだけの統計では、何をどう感じたかはもちろんのこと、行動パターン、スポットでの滞在時間などがさっぱり見えてこない。

本調査では、霧多布湿原センターを訪れる人々のニーズや利用動向を具体的に明確化して、湿原の活用・保全、浜中町全体の魅力を探り、今後の来訪者誘致策・対応策に役立ててもらうことを目的とする。

2. 方法

対象：霧多布湿原センター来訪者

調査日：平成11年7月31日(土)、8月1日(日)

平成12年8月14日(土)、8月15日(日)

手順：・センター来訪者入館時に「聞き取り調査の御協力をお願い」の用紙を手渡す。

- ・「…お願い」には入館時刻を記入しておく。
- ・退館時に「…お願い」の紙を回収し、その時刻を記入する(センター滞在時間がわかる)。
- ・調査票をもとに聞き取り調査をする。
- ・記念品(ポストカード)をお礼にわたす。

3. 調査結果

A. 霧多布湿原センターについて

a. このセンターを何でお知りになりましたか？

事前にガイドブックなどで情報を得てから立ち寄ったケースが7割位(194件)。そのうち、情報源がはっきりと「るるぶ」(旅行雑誌)であると答えたのは約2割(36件)とかなり多い。

b. このセンターを利用した印象は？

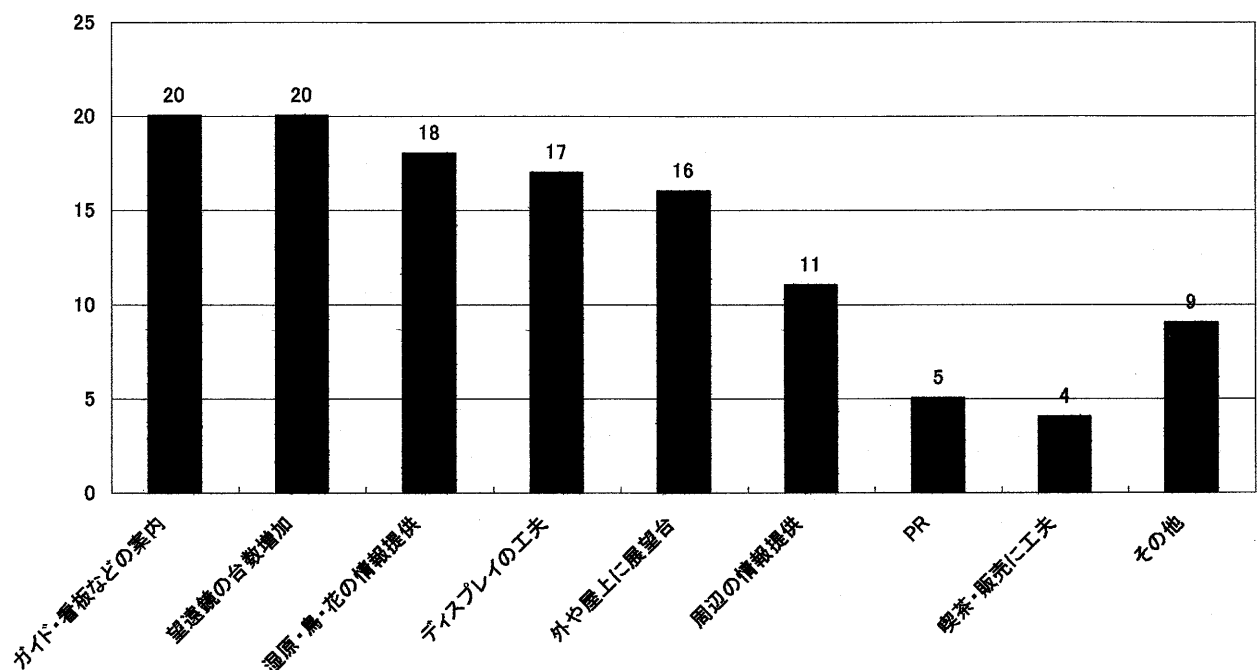
センターは概ね好印象を持たれており、「きれい」「感じがよい」という答えが多い。眺望の良さの回答が多いことから考えて、一階部分だけでなく、二階の展望室も多くの来館者に利用されているようだ。展示物も子どもが楽しめるよう工夫されている点や、剥製でなくカービングを利用している点などで、多面的に評価されている。

d.このセンターへの要望・希望

来訪者からの要望については「情報」がキーワードとなろう。観光客はどうしても今の情報が気になる。どんな花が咲いていて、どこに鳥がいて、今見えているものは何なのか。そういったリアルタイムの情報が求められている。

そしてより基本的な情報として、そもそも湿原センターの駐車場はどこなのか、センターのどこに何があるのか、といったことがはっきりしない、という苦言も何件か寄せられている。現場にいと、どうしても見えづらくなる事柄だが、外部からの視点を常に持ちながら、解決していくべき課題に思われる。

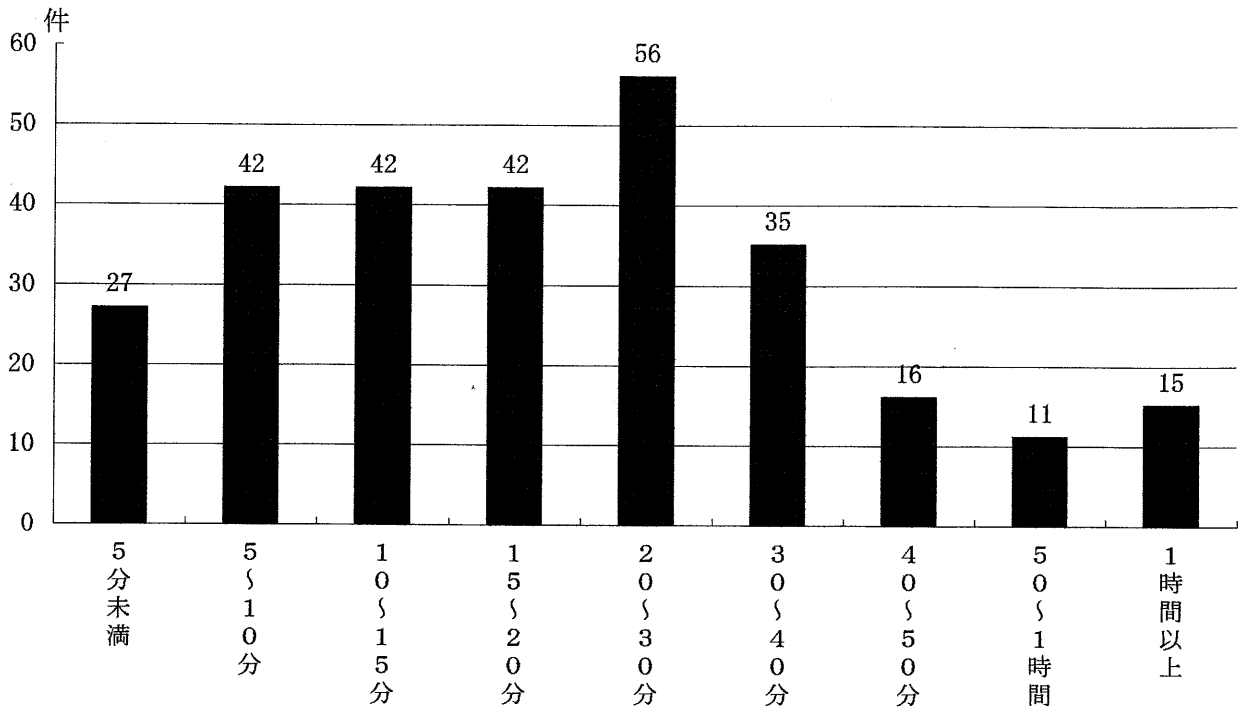
センターに期待すること



e.霧多布湿原センター滞在時間

平均24～25分。センターの内容を楽しむには、随分短い時間であるように思われる。調査中、「時間がない」という言葉を来訪者の口から何度となく聞いた。旅行中にそんなにあせることもないと思うのだが、短時間にたくさんの場所を訪れることが目的となってしまっている旅行形態では仕方ないのかもしれない。逆に30分近くも1ヶ所で留まっているというのは、長い方だと見ることも可能だ。同規模の類似施設と比べてみるがありそう。

霧多布湿原センター利用時間



B. 霧多布湿原について

a. どのルートでまわりましたか？

霧多布湿原を訪れる場合、ポイントは「霧多布湿原センター」「琵琶瀬展望台」「霧多布岬」の3ヶ所に集約できることがわかった。霧多布湿原センターで調査しているので、次の4パターンに分類できる。

- ① 霧多布湿原センターのみ
- ② 霧多布湿原センターと琵琶瀬展望台
- ③ 霧多布湿原センターと霧多布岬
- ④ 霧多布湿原センターと琵琶瀬展望台と霧多布岬

件数は①17件、②46件、③29件、④144件 となる。

浜中の他のポイントと思われたところ、「涙岬」「ムツブロウ王国」なども聞いてみたが、ほとんどの方が旅行予定に入れていなかった。

b. もっとも印象に残ったスポット・出来事は？

場所として人気があったのは琵琶瀬展望台。出来事としては野生生物の出会いをあげる人が多く、雄大な自然を楽しんでいる様子が見られる。スポットの第3位に霧多布湿原センターが入っており、

他ほとんどが景勝地の中、健闘している。

結果は次のとおりである。

設問B-b もっとも印象に残るスポット・出来事

■スポット■	件数	■風景・出来事■	件数
琵琶瀬展望台	32	タンチョウを見た	18
霧多布岬	28	花がきれい	13(アヤメ,ワタスケ)
湿原センター	15	湿原	9
涙岬	7	展望がよい	9
MG ロード	4	動物との出会い	6(シカ,キツネ,ウウ)
温泉	3	道路が快適	5
三番沢木道	3	湿原と海	4
仲の浜木道	2	風が強い	2
アゼチの岬	2	カーからの眺め	2
ケンボッキ島	2	星がきれい	2
火散布	1	アオサギを見た	1
榊町展望台	1	何も無いところ	1
キャンプ場	1	キツネの交通事故	1
エトピリカ村	1	霧多布岬の朝日	1
		島の風景	1

c. 霧多布湿原にきて感じたこと(または湿原のイメージ)

表のように、5分野、プラスとマイナスに分けてみた。

ほとんどの人がプラス評価をしているのは、調査が偶然晴天の日に行われたことも影響しているだろうが、とてもよいことだと思う。マイナス評価の項目についても、個人的な好みによるものが半分を占めていて、あまり重要視する必要はなさそうだ。

また、風景イメージの方が多いのは、湿原を見るだけで、木道を歩いたりする積極的な利用がなされていないことも関係しているように思う。

霧多布湿原のイメージ

■自然風景■	件数
<プラスイメージ>	
雄大	72
きれい	21
展望が良い	14
すばらしい	7
親しみやすい(身近な感じ)	7
釧路湿原より良い	6
霧	5
北海道らしい	5
海が見える	4
独特な風景(異国のよう)	4
蛇行した川	3
気持ち良い	3
絵になる風景	1
釧路湿原と同じ	1
明るい	1
神秘的	1
落ち着いている	1
世界で一番	1
静か	1
計	158
<マイナスイメージ>	
こんなものか	1
何もない	1
寂しい感じ	1
草原と変わらない	1
計	4

■自然資源■	件数
<プラスイメージ>	
花がきれい	19
自然豊富	10
動物(ツルなど)	10
荒らされていない	6
計	45
<マイナスイメージ>	
水が少ない	2
虫が多い	1
花が減ってきている	1
木が少ない	1
計	5

■観光■	件数
<プラスイメージ>	
また来てみたい	9
観光地っぽくなくて良い	3
見所が多い	2
計	14

■施設・整備■	件数
<プラスイメージ>	
以前より整備されている	2
道路がうまく出来ている	2
散策道は良い	1
計	5
<マイナスイメージ>	
以前の方が良かった	2

■地域■	件数
自然を大切にしている	3
民家と近い	5
計	8

d. 木道を歩いた印象

表のような結果で木道利用率はとても低いことがわかった。

木道を、	件数
歩いた	37
歩いてない	179
これから	39

「これから」という回答の数には、本調査によって木道の存在を知り、それならば行ってみようかという人々も含まれていて、流動的な数である。とすると、利用率は15%、「これから」と回答した人がすべて利用するとしても30%という状態だ。

「木道を利用したくない」というのではなく、「木道の存在を知らない」「木道の入り口がわからない」ことから、利用率が上がらないのだと思われる。Aでの「情報」不足が一因なのは確かだろう。

一方、木道を利用した方に印象等を伺ったところ、下記のようになった。

B-d 木道を歩いた印象

■歩いた印象■	件数	■気づいた点・要望など■	件数
木道は良い	6	もう少し周遊できると良い	2
近くで花が見られる	8	柵が倒れていた	2
整備されている	4	踏み跡が気になる	1
風景が良い	2	これ以上増やさないで	1
歩きやすい	2	幅が狭い	1
楽しかった	1	草が多く歩きにくかった	1
こんなものか	1		
廃道みたい	1		

けっこう不満が多いようだ。しかしどれも基本的ニーズで、改善していく必要がある。

一案として、一般の人に呼びかけて維持・整備するのはどうだろうか。木道を作ったときのノウハウを、維持・整備にも応用してみるということだ。通りすがりの観光客に期待するのもいいが、「環境ボランティアツアー」と銘打ってワーキングホリデーを積極的に楽しんでもらうのもよさそうだ。

B-e 湿原について気になった点

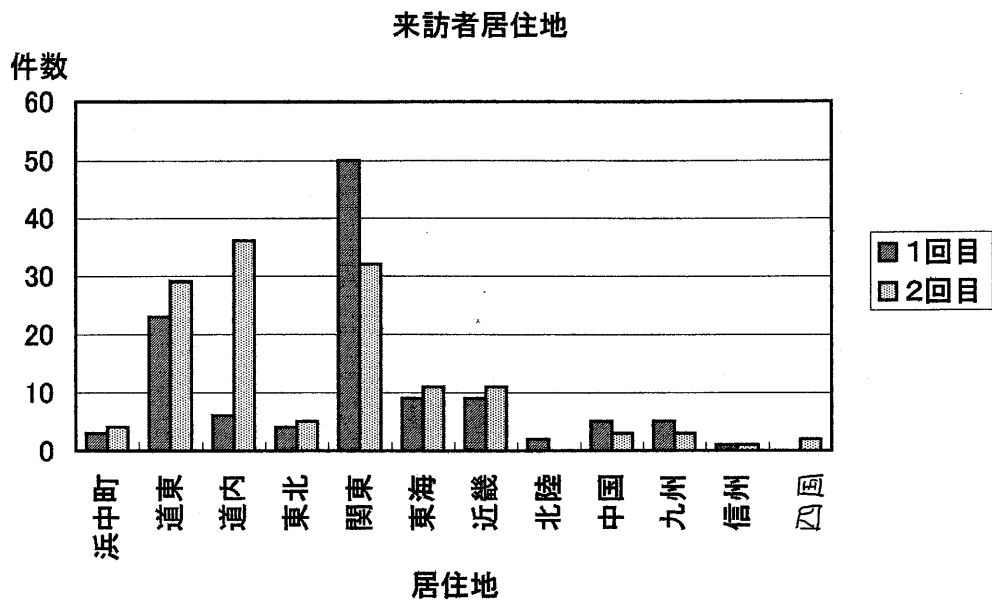
■自然環境■	件数
湿原に人が入りすぎ(荒廃, 植生変化・減少, 開発)	7
現状維持(保存)できるのか?(水質・水量, 自然)	6
水・沼が少ない気がする(乾燥化)	2
人と動物の関係(ex.カヌーとツル, 道路を横断するシカ)	2
■地域・開発■	件数
今後手を加えずに保護して欲しい(舗装路, 木道, 施設)	21
MG ロードは不要なのでは(湿原への影響)	9
民家が近い(特に境界付近の影響が心配)	9
湿原全体・花解説の案内看板が欲しい	5
駐車場があれば良い(ex.見晴らしの良い所)	3
自家用車の入込みへの懸念(ex.シャトルバス等運行しては)	2
電線・電柱がなければ良い	2
看板が朽ちている	1
売地の看板が気になる(仲の浜木道付近)	1
私有地が多いので公有地化しては	1
残そうという意識が高まっているので良い	1
道路が工夫された作りだった(湿原に対して)	1
■観 光■	件数
もっとPRして	4
木道付近に常時解説員を置いてはどうか	1
マナーを徹底させて欲しい	1
宿泊施設が少ない(滞在型へ)	1
もっと自由に入れたら良い	1
ゴミ箱を増やして欲しい	1
以前よりゴミが少なくなった	1
入金制にしてはどうか	1

多くの方が、これ以上の整備より、湿原の保全を望んでいることが分かる。

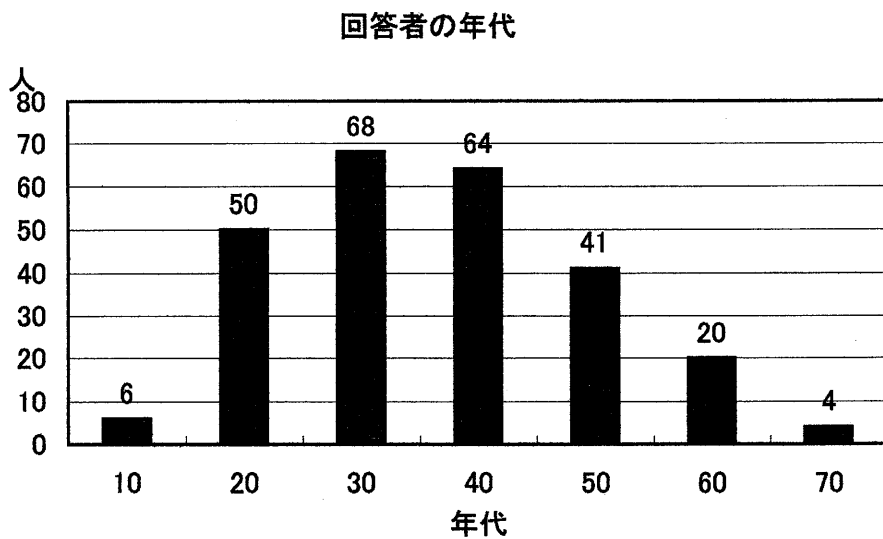
C. フェイスシート

・回答者の居住地

2回目は盆のため道内が多くなる。

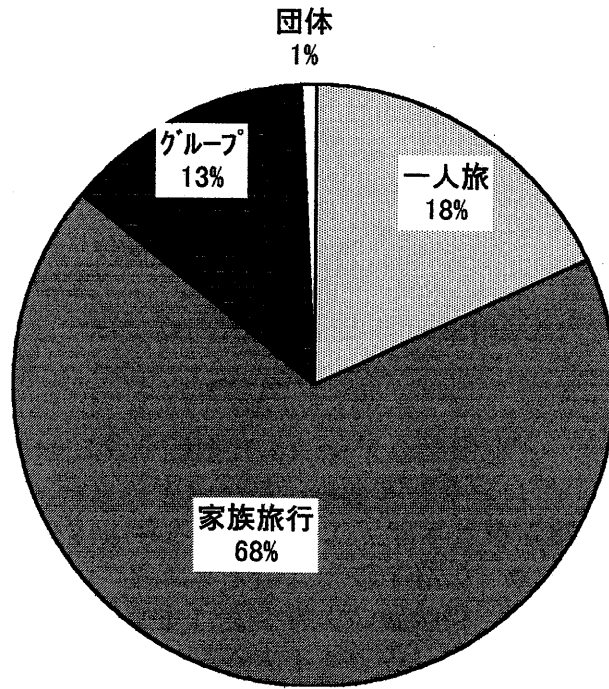


- ・ 男女比は男性 140 名 (55%)、女性 115 名 (45%) でほぼ半々である (図表省略)
- ・ 回答者の年代は、次の旅行形態を反映して中年層が中心。



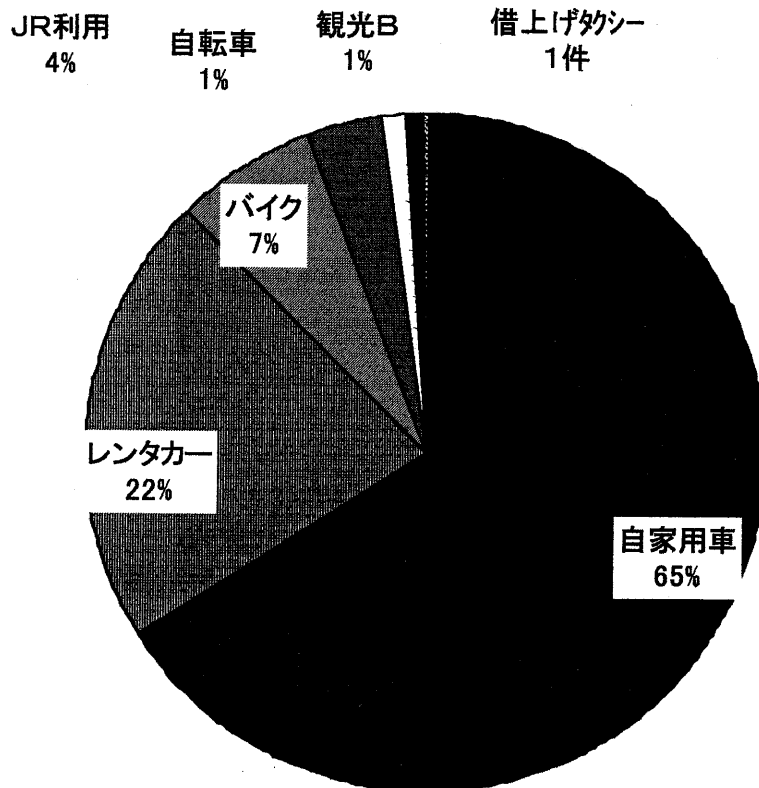
・ 旅行形態

家族旅行が多い。センターの展示が子どもにも分かりやすいという点は、とても評価できる。



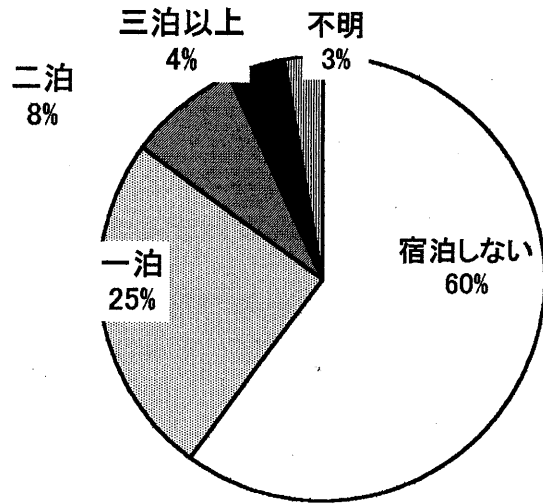
・ 来訪手段

車中心。もっと自然を満喫できる来訪手段の利用を促せないものか。

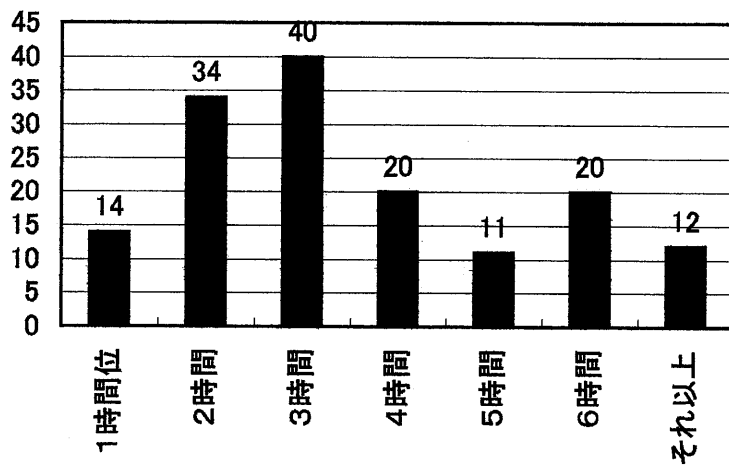


・ 浜中町での滞在日数・時間

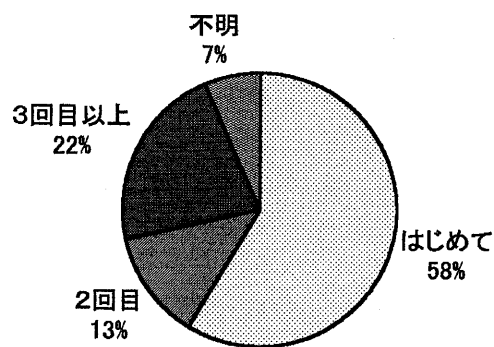
宿泊が約4割。霧多布を目的として旅をしている人が多いことが伺える。



滞在時間(宿泊者除く)



・ 浜中町への来訪回数…リピーターが多い



4. 今後の課題

いろいろあげられるが、今回の調査でとくに強く感じたもの3つを課題として提示し、まとめとする。

①情報発信の仕方

来訪者にとって必要な情報を、わかりやすく、利用しやすい形で提供することが望まれる。「現在の状況」と、「より楽しむ方法」の2点念頭に入れておけばよいのではなかろうか。はじめてセンターを訪れた人は、どこに何があるかという情報がほしい。その情報が手に入れば、例えばおなかがすいていた場合、2階で軽食をとろうと思う。食事中に、テーブルの上に館内の案内があれば、次の行動を考えられる。食べながら、目の前に広がる景色を見て、湿原ってなんだろう、紹介のパネルを見にいこうかな、散策の時間が近いのなら歩くのもいいな、という具合だ。前段が「現在の状況」、後半が「より楽しむ方法」ということだ。来訪者が楽しみたいと思う情報までの道筋ができていればよい。センターにある情報量は膨大だけれども、初めての人が消化しやすい形に少し加工しておかないと、なかなか利用してもらえずもったいない。それ以前に、センターの場所そのものが分かりづらいという指摘も多い。マップなり、案内板なりで、PRをしてはどうだろうか。来るまでにかなり迷ったという回答者も何人かいた。

②木道の利用促進

湿原を歩くと、外から見ているときとは一味異なり、小さな草花に気がついたり、湿原の香りがしたり、と多角的な楽しみ方ができる。というわけで、木道が作られているのだけれども、調査をしてみて分かったが、「もくどう」と聞いても意味が分からない人は実際とても多い。漢字で木道と書いてあるだけではますます「？」である。

そういう来訪者に、湿原の楽しみ方を見るだけではない、ということをも木道の存在と同時に伝えていく必要を感じた。「木道はこちら」というだけでは利用率はあがらないのではないかと思う。利用者が増えれば、木道ファンも増え、木道を直すボランティアをしてくれる人々の裾野も広がる、と上手くいくかはともかく、初心者巻き込んでいく工夫が必要だろう。

③センターまでのアクセス

北海道の旅行全般に共通していることだが、車がないと目的地に到達できない、もしくはとても困難を伴う。霧多布湿原センターも残念ながらその一例だ。でもせっかく湿原という自然を満喫するために旅をしているのだから、狭い車に押し込められて湿原を何となく眺めてくる、なんていう旅はもったいない。センターに

到着してから木道をおるけばいいといっても、運転する人はそれまでにかかなりの体力と神経を使ってしまい、それ以上の湿原とのふれあいを求めている人も多いはずだ。レンタサイクルの普及をはかったり、歩きやすい歩道を整備したり、という動きがあってもよいのではないだろうか。訪問の仕方でも印象も変わるとあれば、リピーターの増加にもつながることだろう。

先進的な取組みを続けている霧多布湿原センターが、今後ますますアクティブで面白い霧多布の拠点となるのに、この調査が少しでも役に立てば幸いである。